

防犯 最前線

いつまでも児童の強い味方

第24話

米野木区日の出ヶ丘
防犯クラブ



活動の基本は「健康と親睦」と話すメンバーたち＝米野木町の米野木土岡ちびっこ広場で

「信号を守ってね。横断歩道では車に気をつけて、左右を見て渡ろうね」。入学式からはやひと月が経過。町のあちこちで大きなランドセルを背負った新1年生の姿が眩しく映る。生活環境が変わって戸惑う児童や保護者にとって、頼もしい存在がこの人たちだ。

米野木区日の出ヶ丘防犯クラブ。平均年齢70代の元気な10人が、日の出ヶ丘・豊島台の団地から梨の木小学校に通う児童たちを、5年ほど前から見守っている。きっかけは約4年前に亡くなった鈴木廣定さんの「1年生の迎えをやってみないか」という一言。「孫のようにかわい子子どもたちのためなら手を差し伸べてやりたい」と始めた。

昨年度の学区再編によって、団地がある地域は東学区から梨の木学区に編入した。活動は週1回。メンバーは1年生の下校時間に合わせて、学校まで迎えに行き、児童一人一人に交通ルールを教えながら一緒に帰る。「子どもたちにとって遠い距離。事故に巻き込まれてもいけないし、不審者に狙われてもいけないから」と、代

表の伊藤雅彦さん(74)は語る。日の出ヶ丘団地は、藤枝町の愛知ヤクルト工場の南東に位置する閑静な住宅地だ。昭和40年代から入居が始まり76世帯が暮らす。古くからの近所付き合いが息つき、誰とでも気さくに声を掛け合う。地道な活動の甲斐あって、メンバーは「子どもたちは嫌な顔一つせずにあいさつしてくれる」「大きな事故やけがもなく、それが一番ありがたい」と笑顔で話す。

住民の高齢化が進んでも、団地内は明るい。「家に閉じこもってはいけない」と、メンバーの高津富子さん(77)は、自宅で地域のサロン「ほっとカフェ」を開き、人気を集めている。

発起人の鈴木さんの優しい思いを伊藤さんは受け継ぎ、活動に励んでいる。「日常の付き合い合い全てが安全につながる。守るべき子どもが一人でもいる限りがんばりたい」(広)

Ⅱ 終わり

2年間連載した「防犯最前線」は今回で終了します。ご愛顧誠にありがとうございました。



愛知警察署からのお知らせ ☎0561-39-0110

この度、平成26年度から建て替え整備を進めていた「愛知警察署新庁舎」が完成し、4月23日から新庁舎で業務を開始しました。

新庁舎は、来庁者の多い受付業務を1階部分に集約させたほか、警察へ相談される方が安心して警察署へ来ていただけるように相談室を増設するなど、利便性の向上を図っています。

署員一同、「安心して暮らせる安全な管内」の確立を目指して、引き続き努力してまいりますので、ご協力をお願いします。

